

テトス：異邦人の受け入れと難しい和解

テトスはパウロの働きでなぜ重要だったのですか。

パウロの手紙に登場するテトスは、ギリシア人の協力者であり、コリントとの信頼できる仲介者であり、献金を整える仲間です。ガラテヤの信徒への手紙で無割礼であることが重要なのは、異邦人がまずユダヤ人にならなくてもキリストに属するからです。

争点のただ中にいた一人の人

パウロはテトスをエルサレムへ連れて行き、割礼を強制されなかったと述べます。ガラテヤの信徒への手紙では、この個人的な事実が異邦人信徒の自由と福音の真理を支えています。このエルサレム訪問を、使徒言行録のどの訪問と重ねるかには複数の見解があります。テトスの役割を根拠に、一つの年代再構成が確実であるかのように示してはいけません。

聖書の参照箇所: ガラテヤの信徒への手紙 2章1～10節

出典: letters, chronology

難しい知らせを運ぶ

コリントの信徒への手紙二には、テトスを待つパウロの不安と、コリントの人々の反応を聞いたときの安堵が記されています。テトスはエルサレムの信徒のための献金にも関わります。単なる配達役ではありません。パウロはその配慮と協力をたたえます。これらの箇所は、教会の和解に伴う心の負担と、説明責任のある運営を示しています。

聖書の参照箇所: コリントの信徒への手紙二 2章12～13節・コリントの信徒への手紙二 7章5～16節・コリントの信徒への手紙二 8章16～24節

出典: letters

配慮、教え、誠実さ

テトス宛ての手紙は、クレタでの働き、長老の任命、健全な教え、実際の善い行いを扱います。牧会書簡をパウロ自身が書いたかどうかは学界で議論され、伝統的な福音主義の解釈ではパウロの著作として擁護されています。この議論があることを明示しましょう。一連の資料を通して、キリスト者の指導は巧みな話術だけでなく、キリストの救いの恵みと、信頼できる行動という実りに照らして問われます。

聖書の参照箇所: テトスへの手紙 1章5～9節・ テトスへの手紙 2章11～14節

出典: letters, brown

出典

- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [chronology] Pauline Letters chronology: Acts, the letters, dated external anchors, and explicitly qualified reconstructions. <https://paulineletters.com/explore/timeline>
- [brown] Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997), chapter 30, “Who Wrote Titus and I Timothy?”.

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters ・ CC BY 4.0 ・ <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/titus>